

学力向上フロンティア事業中間報告書

(都道府県：福島県)

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	三春町立三春中学校					
学 年	1年	2年	3年	養護	計	教員数
学級数	3	3	3	1	10	23
生徒数	90	111	117	4	322	

研究の概要

1. 研究主題

生徒一人ひとりが主体的に学び、個性の伸長を図るための指導の工夫

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

2年 国語、数学、英語
 3年 選択教科の国語、数学、英語
 教師の加配のある国語、数学と、複数教師で1クラスの指導にあたっている英語で研究を行う。2年間の継続研究であるので、2学年を対象とする。選択教科はコースの分け方により3学年を対象とする。

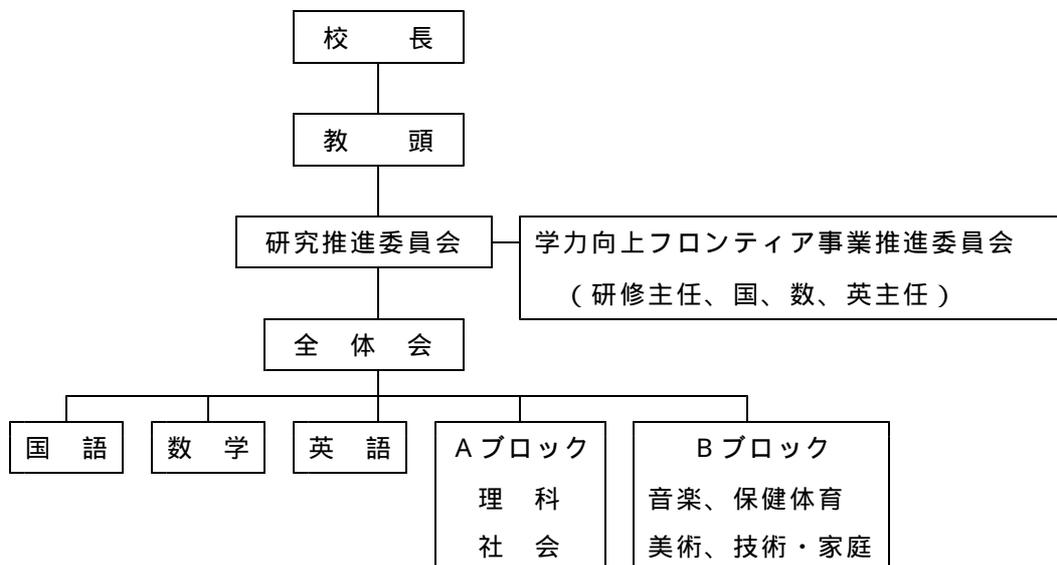
(2) 年次ごとの計画

平成15年度	<p>テーマ</p> <p>生徒一人ひとりが主体的に学び、個性の伸長を図るための指導の工夫</p> <p>研究の見通し(仮説)</p> <p>生徒の興味・関心を喚起させ、個に応じた指導方法、形態を工夫すれば、生徒の意欲が高まり主体的に学習できるようになるであろう。</p> <p>研究の内容・方法</p> <p><必修教科></p> <p>個に応じた指導のための教材の開発</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の学習意欲、興味・関心を喚起させる教材の開発 ・発展・補充・定着をねらう教材の開発 <p>個に応じた指導のための指導方法・指導体制の工夫改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1クラスT-T(2名)により、少人数で構成し、指導する。 ・学習プリントを準備し、生徒の能力に合わせて、学習ができるようにする。 ・学年教師の協力を得て、放課後15分間の学習会を実施する。 ・一単元終了後、習熟度別のコース学習を実施する。 <p>評価を生かした指導の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・復習テスト、単元テスト、中間、期末テストなどから、指導の改善を図る。
--------	---

	<p>< 選択教科 ></p> <p>個に応じた指導のための指導方法・指導体制の工夫改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の興味・関心に合わせたコースや習熟度別のコースを設定し、ガイダンスを行い、コースを選択させる。 ・生徒の能力に合わせて学習ができるように、計画を作成する。 <p>評価を生かした指導の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己評価、相互評価（作品発表）を行い、次の学習に生かす。 <p>< 授業以外の時間の活用による学力向上のあり方 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・朝の読書で生徒の学習意欲、知的好奇心を高める。 ・漢字、計算、スペリングコンテストの実施。 ・各種検定の奨励
--	---

平成 16 年 度	<p>テーマ</p> <p>生徒一人ひとりが主体的に学び、個性の伸長を図るための指導の工夫</p> <p>仮説</p> <p>生徒の興味・関心を喚起させ、個に応じた指導方法、形態を工夫すれば、生徒の意欲が高まり、主体的に学習できるようになるであろう。</p> <p>研究内容・方法</p> <p>個に応じた指導のための教材の工夫、改善</p> <p>個に応じた指導のための指導方法・指導体制の工夫、改善</p> <p>評価を生かした指導の改善</p> <p>学力向上のための授業以外の時間の活用</p> <p>1年次の研究の成果と課題を明確にし、それを土台にさらに学んだことを生かして研究を進め、主題に迫っていく。</p>
--------------------	---

(3) 研究体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

少人数指導、T-T指導により、生徒一人ひとりに目を向けたきめ細かな指導ができるようになった。個々のレベルに応じた援助ができ、生徒の授業内容の理解度が高まったように思われる。生徒一人ひとりが発表したりする機会が多くなり、生徒の学習に対する意識が向上した生徒からも「自分の意見を発言しやすい」「理解できないところをすぐに質問できる」「落ち着いて学習できる」といった積極的な感想も多く聞かれた。学習意欲が高まり、生徒が自ら進んで活発に活動する様子が見られるようになった。

数学科で、単元の学習計画を作成し、「節、学習項目、ねらい、使用するプリントNo.」を一覧表にして単元ごと1冊のテキストを作って指導した。それによって、効率良く学習が進められ、また、生徒が自分のレベルに合った問題に取り組むことができ、基本的な内容の定着や発展的な課題に取り組んで力を伸ばすことにつながった。

生徒の自己評価により、理解が不十分なところを教師が把握し、それを次時に生かすことができた。また、生徒自身も学習を振り返り、理解できたところとできないところがはっきりして次時への自分の課題を持つことができた。少人数クラスであるため、教師が個々の生徒に応じた細かいアドバイスをすることができた。

選択教科では、国語で興味・関心による2コース、数学は、補充・深化・発展の3コース、英語では基礎・応用・発展の3コースから、ガイダンス後に生徒に選択させた。自分で選択したコースで活発に活動することができ、また、問題を解いてわからないところを積極的に教師に質問したり、生徒同士で教え合いながら解決しようとする姿が見られた。

* 学力検査は、これから実施するので客観的なデータを掲載することはできなかった。

2. 今後の課題

少人数指導、T-T指導を来年度も継続して実施し、生徒一人ひとりに目を向けた指導を行なっていきたい。本年度、ある程度の成果を得たが、指導方法、内容をさらに工夫し、生徒の個性を伸ばすような指導のあり方をさぐっていきたい。また、上位の生徒の力をさらに伸ばす指導、下位の生徒に基礎を身につけさせるための個別指導のあり方などについても考えていかなければならない。

意欲面での生徒の意識向上は見られたが、学習内容の定着はまだ十分ではない。理解力、読解力、表現力などをつけていくための指導の工夫をしていきたい。

自己評価や相互評価のそれぞれに適した評価項目を検討し、評価の客観性を高めていきたい

学力把握のための学校としての取り組み

- ・定期テスト（年４回）
- ・定期的な学力検査（NRT）の実施（年１回）

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- ・授業研究会（国語、数学、英語） 平成15年11月26日（水）
三春町内小・中・高等学校教職員参加
- ・教育講演会 講師 野口芳宏先生 平成16年2月16日（月）
- ・教育講演会 講師 庄司他人男先生 平成16年2月27日（金）
- ・最終年度研究公開を平成16年11月に実施する予定



【新規校・継続校】	レ15年度からの新規校	14年度からの継続校
【学校規模】	3学級以下 7～9学級 13～15学級	4～6学級 レ10～12学級(普通9 特殊1) 16学級以上
【指導体制】	レ少人数指導 その他	レT・Tによる指導
【研究教科】	レ国語 社会 レ外国語 音楽 保健体育 その他	レ数学 理科 美術 技術・家庭
【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】	レ有	無